



### 水遊びを楽しみましょう

7月になり、これからどんどん暑くなっていきます。天気の良い日は水遊びを行い、冷たい水の心地良さや面白さを感じられるとよいですね。この時期は体力や食欲が落ちたり、睡眠時間も不十分だったりして夏バテしやすい時期でもあります。生活のリズムを整えながら、この夏を元気に乗り越えていきましょう。

### 「みたて・つもり」の世界は「生活の鏡」

2~3歳の子どもたちの遊びを見ていると、「よくもまあ、飽きもせずに同じことばかりをくり返しているなあ」と言いたくなることがあります。しかし、よく見るとけっして単純な繰り返しではありません。器から器へ移しかえたり、スコップですくって器のなかに入れ分けていく遊びの中にも、何か具体的なイメージがあって、それを反映した子どもなりの意味があるようです。

この2~3歳の子どもたちの、一見変化に乏しい遊びも、子どもなりのみたてやつもりの世界があります。葉っぱを敷いて、その上にお砂をのせて、トントンと叩いている女の子に「何つくったん?」と聞えば、「カレーライスつくったねん」と返ってきました。さらに、「きのう、おかあちゃんがつくったねん」と補足してくれました。なるほど、昨日の夜、本当におかあさんとカレーライスをつくって、じゃがいもを包丁で切らせてもらったのかもしれません。あるいは、ごはんの上にカレーをかけるしごとをさせてもらったのかもしれません。

この時期の子どもの「みたて・つもり」の世界は、「生活の鏡」です。1歳半ころの発達の質的転換期を達成していくときに、おとのしごとへの憧れの心を芽生えさせ、日々の生活のなかでその憧れをひとつひとつ実現しながら、ここまで成長してきたのでしょうか。そして、この「みたて・つもり」の世界は、これから子どもたちの発達にとってとてもたいせつな力をつくる「発達工場」です。子どもは、この「みたて・つもり」の世界の楽しさを知ると、経験の世界をイメージとして呼び起こし、そぞろ「みたて・つもり」を豊かにしていこうとするのです。「みたて・つもり」の世界があることによって、しごとへの憧れの心がいっそう高まってくるともいえるでしょう。つまり、「みたて・つもり」はイメージの力の「製造工場」で

あり、子どもが生活経験を広げていこうとするエネルギーを生産する工場でもあるのです。

このイメージの力が、幼児期の子どもの表現を豊かにしています。それは、描く・つくる活動だけではなく、はなしことばという媒体を通じて豊かになっていくことです。そして、やがては、イメージの豊かなはなしことばが文脈をつくる力にも結びつき、書きことばの世界をつくる土台にもなっていくはずです。

～中略～ 一番求められるのは、再現してみたい生活経験の豊かさをつくることです。

「みたて・つもり」こそ、「生活の鏡」なのですから。

参考文献：『発達の扉 上』 白石 正久

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

次回のめだか教室は…

めだか教室①…8月はありません

9月の予定は来月号でお知らせします

めだか教室②…8月26日(火) 9:20~11:15 →みずあそび をします

◎持つて来るもの 水着（もしくは水遊び紙パンツ）・タオル・着替え・水筒

※保護者の方も濡れてもいい服装でお願いします♪

『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。（おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください